



健康まちづくりプロジェクト

～定時制高校と地元企業・行政とコーディネーターによる佐倉の夜道をつくる試み～



■協働パートナーの種別

NPO	地 縁	社 協	学校・ 大学	企 業	行政	その 他
-----	--------	--------	-----------	--------	----	---------

■協働パートナー

・一般社団法人 Spice ・千葉県立佐倉南高校
・佐倉市 ・岩瀬薬品株式会社 計4団体

■事業費

92万7千円

■資金調達手段

委託料・助成金・寄附・利用料等受益者負担・
運営団体負担(その他(クラウドファンディング))

写真の説明（蓄光式パネル「ナイトコンシェルジュ」を生徒・企業で設置。）

事業概要

本事業では、千葉県立佐倉南高等学校定時制夜間部の生徒たちが中心となり、学校前の通学路に「ナイトコンシェルジュ」といわれる蓄光式のパネルを設置。これは単なるインフラ整備ではなく、「心と身体の健康」をテーマにした探究学習の一環として実施されたものである。プロジェクトの資金は、地域コーディネーターである一般社団法人 Spice がクラウドファンディングにより調達。生徒は授業の中で、課題設定・情報収集・協力依頼・デザイン検討・地域調整に至るまで主体的に関与し、地元企業や行政と連携しながら一連のプロセスを経験した。(参考:<https://camp-fire.jp/projects/798305/view>)

●協働までの経緯

本プロジェクトは「地域との関係性を育む学び」をテーマとした探究学習である。生徒自身が地域課題に向き合い、「自分はこのまちで、何ができるのか」を考える力を育むことを目指した。

その実現にあたっては、地域コーディネーターである一般社団法人 Spice が、千葉県立佐倉南高等学校定時制夜間部、岩瀬薬品株式会社、佐倉市役所をつなぎ、民間・教育・行政を横断する実践的な協働体制を構築。生徒とともに「健康とは何か」を探究するなかで、多くの生徒が「自分は健康ではない」と答えた。その背景には、身体の問題だけでなく、孤独や不安、将来への閉塞感といった“心の揺らぎ”があった。

そうした実感に根ざして、「まちの健康」と「生徒自身の健康」の接点を見出し、岩渕薬品との協働が始まった。それぞれの立場で“健康”に意味を持つ両者が出会い、議論を重ねながら生まれた実践は、単なる教科学習を超えた、地域に開かれたモデル事例としての価値を持つものになった。

主な事業内容(年間スケジュール等)

- ① 千葉県立佐倉南高等学校定時制夜間部 授業の実施（2023 年度～2025 年度・12 回）
 - ② 岩渕薬品株式会社岩渕琢磨代表取締役社長、佐倉営業所の社員を中心に 7 名のゲストとともに生徒がグループ活動を行う（2023 年 10 月～11 月）
 - ③ パラリンピアン・花岡伸和さんより講演「自分らしく生きる」（2023 年 11 月 2 日）
 - ④ 一般社団法人 Spice 郡司より講演「誰かにはたらきかけるってどういうこと？」、車椅子体験をもとにした道のデザインの意見交換（2024 年 5 月 23 日、12 月 5 日、12 月 12 日）
 - ⑤ 佐倉市役所・包國さんと向後さんへ生徒からプレゼンテーションと意見交換（2024 年 6 月 27 日）
 - ⑥ 「健康まちづくりプロジェクト」で考案したアイデアを実現するためクラウドファンディングを実施。75 名の方々から目標金額の 185%である 927,000 円の寄付。（2024 年 10 月）
- 詳細ページ：<https://camp-fire.jp/projects/798305/view>

主な協働パートナーとの役割分担

【地域コーディネーター】一般社団法人 Spice
資金調達（クラウドファンディング事務局）
広報 PR・メディア連携
授業設計・参加

【学校】千葉県立佐倉南高等学校定時制夜間部
授業実施者

【地元企業】岩渕薬品株式会社
授業参加、協賛

【行政】佐倉市役所
各部署との連絡・調整・許可
授業の参加

コラボのコツ!!

★コツ1：「手触り感のある体験」を大事にしたこと

★コツ2：車椅子ランナーと健康について考えたり、薬の卸売を主とする企業と市民の「健康観」を議論したりするなど、あえてずらした問いを生徒に投げかけたこと

★コツ3：学校で担えない役割を外部のコーディネーターが担ったこと

車椅子ランナーや医薬流通業者と協働するなど実社会とつながる手触り感のある探究を重視。学校で担いきれない役割を外部人材が補完することで、余白があり柔軟で持続可能な協働体制を築いています。

協働事業によって生まれた成果

【一般社団法人 Spice】

一般社団法人 Spice は、地域コーディネーターとして地元企業や行政との橋渡し役を担いました。特に、地域の多様なステークホルダーをつなぎ、「この場所で生徒たちが向き合っている現実」を地域全体の課題として捉えてもらえるよう、共感を生む関係構築に尽力しました。

また、プロジェクト推進にあたっては、クラウドファンディングによる資金調達をはじめ、関係機関との調整、広報活動、外部連携の仕組みづくりなど、多岐にわたる実務的支援を担い、これ

別添様式 事例紹介用調書

らの活動を通じて、生徒たちが「自分たちで物事を動かす」という体験を持てるよう後押しすることができました。

生徒の可能性を信じ、ゆっくりと向き合いながら、プロジェクトの伴走者として「大人ができることを実行する」ことは、我々にとっても大きな挑戦であり、結果的に組織としての実行力や柔軟性の強化につながりました。学校や地域と共に“前に進める構造”をつくることの意義を、実感をもって共有できたことは、Spiceにとっても大きな成果です。

【千葉県立佐倉南高等学校定時制夜間部】

定時制高校には、社会や人との関わりに苦手意識を抱いてきた生徒も少なくありません。そうした生徒たちも、自分たちだからこそ考えられることに向き合い、自分たちの意見を尊重してくれる地元企業や大人と出会うことで、社会との関わりに対する苦手意識や傷つきを少しずつ回復していきます。

こうした経験を重ねるなかで、自らが学び、考え、取り組んできたことに誇りを持てるようになっていきました。本取り組みは、生徒たちが「社会に素手で触れる」という営みです。それは生徒たち自身の成長にとどまらず、当初は想像もできなかった価値を地域にもたらすことにもつながりました。

【岩渕薬品株式会社】

人々が無理せず自然に健康になるための方法について、高校生との対話を通じて、柔軟で新鮮な発想に大いに刺激を受けました。さらに、仕事やプロジェクトを推進する上では、関わるすべての人が「楽しさ」や「ワクワク感」を共有できることが成功の鍵であると改めて実感しました。加えて、地域の人々が持つ温かさやエネルギーに触れ、地域との協働が企業活動に新たな価値を生む可能性を強く感じました。

【佐倉市役所】

佐倉市と佐倉南高等学校をはじめとした市内5校の県立高等学校等は、令和6年（2024年）2月に締結した包括連携協定に基づき、市制施行70周年に関する様々な記念事業を展開してきました。

市としては、持続可能な地域社会の実現に向け、将来を担う若い世代がまちづくりに参画する機会をつくることが重要であると考えています。今回の佐倉南高等学校夜間部の皆さんの取り組みは、試行錯誤しながらも、自分たちが考え抜いた提案により、ほんの少しかもしれませんが、まちは変えられるのだと感じていただけたものと感じています。

また、本市といたしましても、今回の取り組みに対して、複数の部署が協力させていただいていますが、若い世代の意見をまちづくりに反映していくことための土壌が少しずつ醸成されていることを実感できる機会となりました。

今後力を入れていきたいこと

本プロジェクトは、生徒たちが築いた学びを次の世代へ引き継いでいく、循環型の探究モデルとして展開されている。今、生徒たちは「何を残し、どう渡すか」を自ら考え、実行する段階にある。探究では、決められた答えをなぞるものではなく、自分だけの問いを持ち、迷いながら進む

プロセスそのものに意味がある。

また本事業では、千葉を飛び出し、福島県いわき市でのフィールドワークも実施している。小松理虔氏が運営する「ヘキレキ舎」との連携のもと、福島の方々とともに「地域と健康」をテーマに学び合い、地元での実践へと還元する試みが進められている。こうした県外交流による視野の拡張や横展開の機会は、生徒の学びのみならず、地域における人材育成・地域教育のモデル化にもつながる。

今後は、千葉県内の他の定時制高校や地域資源との連携を進め、本事業で得た知見やプロセスを広く共有・制度化していくことも視野に入れている。



協働事例プロフィール

【活動開始年】2023 年 9 月～現在

【活動の PR 手法】クラウドファンディング(<https://camp-fire.jp/projects/798305/view>)

【表彰歴・マスコミ掲載歴等】

J-WAVE 81.3 FM「JK RADIO TOKYO UNITED」の「EYES ON THE FUTURE」11 月 1 日(金)放送

千葉テレビ「news チバ」5 月 28 日(水)、29 日(木)放映

ケーブルネット 296 にて 5 月 26 日～6 月 2 日放映

「教育新聞」6 月 10 日(火)掲載

「読売新聞 千葉版」6 月 22 日(日)掲載

「千葉日報」7 月 30 日(水)掲載

【問い合わせ先】担当者：一般社団法人 Spice 渡辺 睦美 メールアドレス：m-watanabe@spice-edu.org